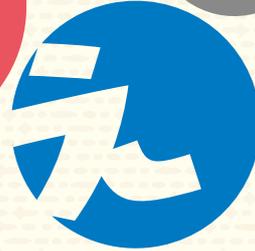




伝える



つなげる



No. 401



ひびきあう

今日の表紙写真は、県社協職員が訪れた、「三重県内梅林 梅香る新春、親子で迎える穏やかなひととき」の様子をお届けします。



テーマは
「旅行先の景色や思い出」

三重県内の風景や美味しいもの、
おすすめスポットなどを
ぜひ、おすそ分けください！

写真の投稿はこちらから >>>

あなたの写真が世界への冒険を共有し、
福祉の魅力を広める一役を担うかもしれません！

contents

- 特集：年頭所感 ～新年のメッセージ～ …… 2
- ねんりんピック2024 報告 …… 3
- みえ福祉・介護フェア2024 報告 …… 4～5
- 連載：新ウェルビーイングみえプラン …… 6
- 三重県共同募金会からのお知らせ …… 7～8

福祉みえでは特集記事に uni-voice による音声コードを導入しておりますが、今月号におきましては収録字数の関係上、音声コードの導入を見送らせていただいております。

ふれあいネットワーク

年頭所感 （新年のメッセージ）



社会福祉法人
三重県社会福祉協議会
会長 井村 正勝

認め合い 包み込み 共に生きる地域社会をめざして

あけましておめでとうございます。
平素より、三重県社会福祉協議会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨今の地域社会では、少子高齢化・人口減少社会の進展、コロナ禍後の生活の変化、生活困窮世帯の増加、社会的孤立、ひきこもり、80―50問題といった、様々な問題が生じています。

さらに、近年、自然災害が頻発化・激甚化しており、昨年一月には能登半島地震、九月には同じく能登地域で豪雨災害が発生しました。また、私たちの住むこの地でも、八月には南海トラフ地震臨時情報が発表され、

緊張が走りました。防災に対する日頃からの備えの重要性を厳しく再認識させられたところ です。

このような社会にあって、様々な福祉の課題に対し、地域の住民がつながることによって、一人ひとりの暮らしと生きがいを実感させ、地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現が求められています。

本会では、地域福祉活動支援計画・強化発展計画「新ウェルビーイングみえプラン」について、令和七年度からの第二期計画としての改定作業を進めています。

その基本理念として、「認め合い包み込み 共に生きる地域社会をめざして」を第一期に引き続き守りながら、様々な取組を進めていきます。

また、これには、私たち社会福祉関係者だけではなく、様々な分野の皆さまと連携・協働を進めていくことが重要です。

本会役員職員一同、三重県の福祉の向上に努めてまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



社会福祉法人
三重県共同募金会
会長 小笠原 まき子

参加と協働による 「新たなたすけあい」の 創造をめざして

謹んで新春をお祝い申し上げます。
平素より、赤い羽根共同募金運動にご支援をいただいております県民の皆さま、運動を支えていただいております関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

さて、共同募金運動は、戦後まもなく開始されて以来、今年で79回目を迎えます。この間、民間による福祉活動を支える原動力として地域福祉の発展に大きな役割を果たすとともに、昨年の能登半島地震等の災害時には、被災地支援として役立てられました。

地域では、単身世帯の増加といった社会構造の変化による孤立や物価

高騰による生活困窮、児童虐待、ひきこもり等、福祉課題は複雑化してきております。

このように山積する地域の福祉課題を解決するため、本会は、県民の皆さまからのご支援に加えまして、社会貢献活動に取り組む企業やスポーツチームの皆さま方とも連携して、引き続き募金運動を展開してまいります。

共同募金の配分を受けられる団体の皆さまにおかれましては、共同募金が県民の皆さまからの共感を得て有効に活用されますよう、また、募金の活用につきましては、県民の皆さまにより分かりやすく情報発信を積極的になされますよう、更なるご協力をお願いします。

最後になりますが、三重県共同募金会は、これからも地域の福祉ニーズを的確に捉え、共同募金のテーマでもある「じぶんの町を良くするしくみ」が十分に機能するよう歩を進めていく所存でございますので、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



第36回全国健康福祉祭とっとり大会

ねんりんピック はばたけ鳥取2024

咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花

令和6年10月19日(土) ~ 22日(火)

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の方を中心に、全国のあらゆる世代の方々がスポーツや文化種目の交流大会をはじめ、健康や福祉に関する多彩なイベント等を通じて健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図ることを目的とし、1988年（昭和63）から開催されている祭典です。

本年は、10月19日から22日の4日間の日程で鳥取県にて開催されました。三重県からは96名の選手が出場し、各種目で活躍されました。中でも特に優秀な成績を残された方々（チーム）の報告をいたします。

ねんりんピックはばたけ鳥取大会結果（三重県参加17種目）

種目	開催地	結果			
		リーグ	結果	チーム・個人名	備考
水泳	米子市	個人戦	1位	福田 雅比古	25m背泳ぎ (60歳 ~ 64歳の部)
			2位		50m背泳ぎ (60歳 ~ 64歳の部)
テニス	鳥取市	予選リーグ	1位トーナメント進出	みえとこわか	Fグループ 3勝0敗
		1位リーグ トーナメント	準優勝		1位リーグ 3勝1敗
ソフト バレーボール	境港市	予選リーグ (Gブロック21組)	1位	Let津 桜華夢	Gブロック 21組 2勝0敗
		第1位グループ (Gブロック)	2位		第1位グループGブロック 1勝1敗
サッカー	鳥取市	グループC	3位 / 4チーム	伊賀フットボールクラブ シニア	Cグループ 1勝2敗
マラソン	岩美町	3km 女子70歳以上	優秀賞	天野 はるみ	
囲碁	智頭町	個人戦	優秀賞	川辺 展央	恋山形ブロック3勝1敗
		最高齢者及び 高齢者賞受賞者	高齢者賞		
ペタンク	三朝町	最高齢者及び 高齢者賞受賞者	高齢者賞	廣田 徳太郎	
			高齢者賞	田川 恭市	
ゴルフ	伯耆町	最高齢者及び 高齢者賞受賞者	高齢者賞	平石 英子	
ターゲット・ バードゴルフ	日吉津村	最高齢者及び 高齢者賞受賞者	高齢者賞	坂元 佐恵子	

みえ福祉・介護フェア2024 報告

イベントの概要

三重県福祉人材センターは、福祉・介護の魅力発信事業（三重県委託事業）の一環として、県内の多くの方に福祉・介護の魅力を伝えるため「みえ福祉・介護フェア2024」を11月3日（日・祝）に三重県総合文化センター男女共同参加棟で開催し、202名の方にご参加いただきました。

企画にあたって

昨年度は、ターゲット層を無関心層の小学生とその家族をメインターゲットとした福祉系謎解きイベントを実施しましたが、今年度は、福祉・介護の魅力発信事業内で別途小学生向けのコンテンツ作成を行うことから、ターゲット層を変更しました。今年度は、「介護に興味を持ってもらう」さらには「介護の仕事を理解してもらう」ことを目標とし、図表1を参考にメインターゲットを「介護（の仕事）を認識している段階」及び「介護（の仕事）に興味・関心

がある段階」、また、サブターゲットを「介護に無関心な段階」に設定し、内容を企画しました。

図表1 介護の仕事への認識・接点の段階

介護の仕事への認識・接点の段階		情報収集の姿勢
①	介護の仕事に無関心な（認知していない）段階	介護に関する情報収集に対して受動的
②	介護の仕事を知っている段階	
③	介護の仕事に興味・関心がある段階	介護に関する情報収集に対して能動的
④	介護の仕事を理解している段階	
⑤	介護業界への入職を検討し、業界内の企業や他業界と比較している段階	
⑥	介護業界への入職の意思を固めている段階	

出典：厚生労働省 令和4年度 老人保健健康増進等事業「介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」報告書

実施内容

■ステージイベント

多目的ホールでは、メイプル超合金安藤なつさんをゲストにお招きし、「みんなで明るい未来を作りたい〜介護現場20年の経験から〜」と題したトークショーを開催しました。安藤さんが介護に興味を持ったきっかけや、介護職の世間のイメージと実際の違い、介護に不安を持つ方の相談先や介護の負担を軽減する方法などをお話いただきました。さらに、会場からの質問にもお応えいただきました。

介護や介護の仕事について楽しくお話していただき、介護の仕事のやりがいや魅力を伝えていただきました。

また、一般社団法人三重県介護福祉士会より「介護技術コンテスト優秀者による実演」、三重県老人福祉施設協会より、「介護の最先端技術の紹介」、三重県介護福祉士養成施設協議会より「介護職等によるミニ座談会」を行い、介護に関する最新の情報提供や介護の魅力を発信しました。





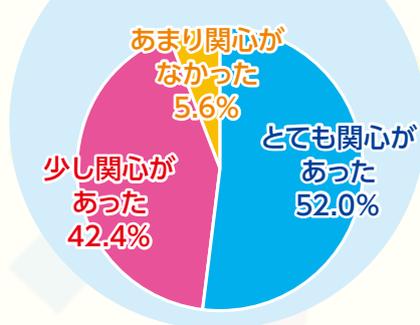
■介護・看護を学べる出展ブース

セミナー室A・B及び多目的ホール前にて、車いすの体験・介護相談、介護ロボット体験・紹介、看護のお仕事体験、介護職をめざす人のキャンパスライフ・介護職の魅力など、現場の声をお届けする座談会を行い、多くの参加者が体験を通じて、介護・看護に触れていただきました。

イベントの成果

参加者アンケートによると、参加前の介護への興味・関心について「とても関心があった」「少し関心があった」と答えた方は94.4%にも上り、介護に関心のある層が多く、企画の際に設定したターゲット層にアプローチできたことがわかりました。

参加前の福祉・介護についての興味・関心

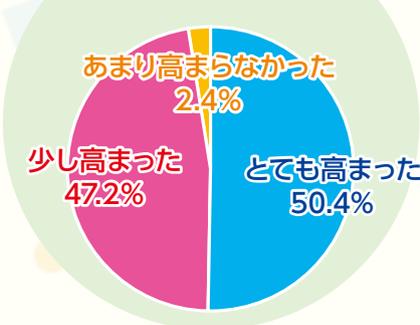


また、本イベントを通じて福祉・介護の興味・関心が「とても高まった」と回答した方が50.4%、「少し高まった」と回答した方が47.2%となり、より一層関心を持っていただくことができました。なお、参加前は福祉・介護について「あまり関心なかった」と回答された方も、イベントを通して、全員が介護への

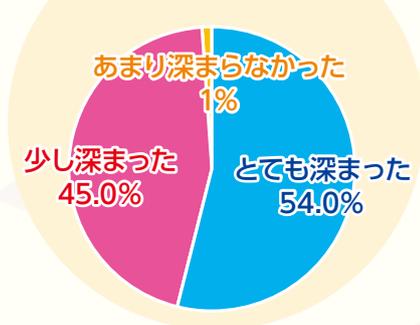
興味・関心が「少し高まった」と回答いただきました。

さらに、福祉・介護の仕事についての理解については、イベントの参加を通じて、53.6%が「とても深まった」、44.8%が「少し深まった」と回答していただきました。

参加後の福祉・介護についての興味・関心の変化



参加後の福祉・介護の仕事についての理解度の変化



このことから、本フェアの目的は、達成できたと考えます。

来場者の反応

イベントに参加したから方々からは「介護する側もケアが大切なのだと分かった。そのためにケア側の機械が増えてきていることも分かった。介護のイメージが変わると働く人も増えるのではないかと思った。(10代 高校生)」「介護職に大いに興味をもちました。(40代福祉・介護職以外)」「アンケート結果より抜粋」と、ポジティブな意見をいただくことができました。

おわりに

このイベントは、福祉・介護の魅力を伝えるきっかけの1つです。三重県福祉人材センターでは、ほかに各学校等での「福祉・介護の仕事学習セミナー」などを実施し、福祉・介護の魅力を発信していきます。また、介護に関する基礎的な研修を通して、介護人材の育成を行うとともに、福祉・介護職場と求職者をつなぐマッチング支援や職場体験を行い、介護人材の確保・定着支援を行っていきます。事業内容は三重県福祉人材センターホームページをご覧ください。





今年、中長期計画である「新ウェルビーイングみえプラン」第1期の最終年にあたります。この連載では、7つの推進項目ごとに振り返り、第2期への展望をお示しします。

基本目標③ 災害時に備えた支援活動の充実

推進項目① 災害時に備えたネットワークの構築・基盤強化

主な事業・取組み

災害時福祉支援体制の整備に向け、三重県、三重県社会福祉協議会、関係福祉団体が「三重県災害時福祉支援ネットワークに関する協定」、「三重県広域受援計画介護職員等受入に関する計画に係る協定」を締結しています。これに基づき、三重県災害派遣福祉チーム（三重県 DWAT）登録員の養成とともに、介護職員等受入調整本部員の養成にも取り組んでいます。

社協間の連携について、県内社協間の相互応援を強化するため、広域連携の仕組みづくりを進めています。市町社協の災害時の対応能力を強化するため、まずは災害ボランティアセンターに関する人材育成に取り組んでいます。

また、東海北陸ブロックの県社協及び指定社協間において災害応援に関する協定、県内の各市町社協と災害時相互応援協定を締結しています。要請に応じて県内・全国の被災地の社協活動を支援しています。

目標の達成度（令和2～6年度を振り返って）

- 三重県 DWAT は令和2年度から6年度にかけて合計200名の養成を目標に、毎年度養成研修を実施してきました。令和6年度は60名を超える登録員を養成し、合わせて208名の登録員を養成することができました。
- 県内社協の相互応援については、広域連携のマニュアルを作成し、従来の協定に基づく取組みを具体化することができました。今後はマニュアルの更新を継続的に実施していくことが必要となります。
- 災害ボランティアセンターに関する取組みでは、ICTツールを取り入れた運営を市町社協と一緒に進めてきており、モデル地区を中心に、実際のICTツールを取り入れた訓練を実施するなど、少しずつ浸透してきています。
- 東海北陸ブロックの県社協及び指定社協間における災害応援に関する協定、県内市町社協との災害時相互応援協定により、令和6年能登半島地震および豪雨災害においては延べ138名を派遣しました。

今後の展望

- 令和6年1月に発生した能登半島地震での被災者支援において、三重県 DWAT は3月の1か月間で延べ27名を石川県志賀町及び輪島市の避難所等に派遣しました。そこでの経験を、平時の研修や災害時の対応等に活かしていく必要があります。
- また、輪島市社協への応援として県内の多くの社協職員を派遣しました。その経験を、各地域での災害に備えた取組みに活かしていくことが重要です。
また、災害時に社協に求められる役割は、災害ボランティアセンターだけではなく、幅広い対応能力の向上を目指し、取組みを展開していく必要があります。



三重県共同募金会からののお知らせ

令和6年度地域課題解決型募金（テーマ型募金）へのご協力のお願い

三重県共同募金会は、県内の団体がその地域が抱える課題を解決するため、団体の活動をアピールすることで、活動に賛同する県民の皆さまに寄付を呼びかける地域課題解決型募金（テーマ型募金）に取り組んでいます。令和6年度は5団体が参加します。募金の受付期間は令和7年1月1日（水）～3月31日（月）になります。募金へのご協力をよろしくお願いいたします。



詳しくは
三重県共同募金会
ホームページへ

NPO法人 バンビの会

申請事業（テーマ）

無償の奨学金給付・生活支援品給付・お誕生日プレゼントの贈呈

事業内容

児童養護施設や里親のもとから進学を志す学生たちに、奨学金・生活支援品等の給付、プレゼントの贈呈

募金目標額 100万円

募金は
こちらから！



一般社団法人 三重県里親会

申請事業（テーマ）

里親は子どもの育ちの応援団

事業内容

- ・里親子を対象とした交流会、研修会、講演会の開催
- ・里親制度についての普及啓発活動

募金目標額 50万円

募金は
こちらから！



けいわかカレー食堂・実行委員会

申請事業（テーマ）

居場所拠点維持継続化事業

事業内容

- ・子ども食堂運営を行い、運営回数を増やすことで子どもたちの居場所の確保
- ・安定した子ども食堂の運営に係る資金等の確保

募金目標額 36万円

募金は
こちらから！



父子の会

申請事業（テーマ）

地域の「つながり」づくり～みんなのやさしいもタイム～事業

事業内容

- ・発達障がい児をもつ保護者に農作業や焼き芋作り等を通して、共同作業をする機会を作る
- ・発達障がい児のために、特性や多様性に配慮した体験活動の機会を作る

募金目標額 28万円

募金は
こちらから！



特定非営利活動法人 快生教学会

申請事業（テーマ）

認知症当事者が参画する地域での新たな「役割・居場所」の形を創造する

事業内容

- ・認知症当事者のための居場所づくりを行う
- ・フラワーベッド（各級庁舎の花壇）を起点として、認知症当事者と一緒に認知症の啓発を行う
- ・認知症についてご理解いただける方に、オレンジフラッグを掲げてもらうことによる見守り活動の実施

募金目標額 11万円

募金は
こちらから！



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償！！

令和6年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	特定感染症		補償開始日から補償 ^(*)		
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667
受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ23-11315より抜粋)



発行人 井村 正勝
編集人 横田 浩一・広報委員会
発行所 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
〒514-8552 三重県津市桜橋2丁目131
TEL: 059-227-5145 FAX: 059-227-6618
URL: https://www.miewel-1.com/ E-mail: info@miewel.or.jp
編集協力 株式会社アイリック

2025年1月号(通巻401号) 令和7年1月発行

「福祉みえ」は三重県社協のホームページでもご覧になれます。また、広報に関するご意見・ご感想は、E-mailにて受け付けております。